

# スクールホッケーライオン

## 110番の家シールラリー

from 豊山小学校

豊山小学校では毎年一学期終業式から一週間、「110番の家シールラリー」を行っています。これは本校の一年生から四年生を対象とし、児童が学区内の子ども110番の家を確認し、110番の家の方と顔見知りになることで、いざというときに駆け込んで助けを求めやすくすることを目的としています。今年度は四十三軒のお宅や事業所様にご協力いただきました。

子どもたちは訪問可能な時間内に徒歩や自転車、また、おうちの方と一緒に場合は車で子ども110番の家を巡ることもあります。子ども110番の家の方との交流もねらいがあるので、訪問の際には「豊山小学校〇年〇組の〇〇〇〇です。今日はシールラリーで来ました。困ったときには助けてください」などときちんと自己紹介をしたり用件を伝えたりして110番の家の方と交流をした後、家の方から台紙にシールを貼っていただきます。シールラリー終了後は学校より訪問数に応じて参加児童一人一人に賞状が渡されます。

参加している子どもたちに話を聞くと、「友達と一緒に回ることができて楽しい」「子ども110番の家がこんなにたくさんあるなんて知らなかった」などの声が聞かれました。また、「ご協力いただいて

いる事業所の方からは「毎年この時季になると元気のよい子どもたちが訪問してくれるのでとてもうれしい」と好評です。このシールラリーは、平成十八年度から始まり今年で十二年目を迎えました。豊山小学校ではこの「シールラリー」の他にも「木遣りを聴く会」「神楽」「どじょう寿司を味わう会」「和太鼓教室」など地域の皆様から学ぶ機会を多く設けています。これからも地域の皆様とのふれあいを大切にしながら学校教育を進めていきたいと思えます。

今後とも豊山小学校の教育活動にご支援・ご協力をお願いいたします。



特集

町政あんない

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ

## 私の航空史

岡野允俊

終戦を迎え、小牧飛行場は米軍に接収された。県下には、清洲、大府、本地が原など六つの飛行場があったが全て廃止され、小牧だけが生き残った。

その後進駐軍の手によって滑走路の拡張、誘導路の整備が図られ、昭和二十五年の朝鮮戦争で、小牧は航空基地としての機能を急速に高めた。終戦と同時に日本は航空機の研究、製造、運輸も禁止されてしまい、その間はもちろん、鳴かず飛ばすであった。

昭和二十六年、アメリカ・ダグラス調査団の一行がやってきて日本の航空機用残存設備、生産能力に関する調査をしていった。戦後、航空機の製造の再開は半ばあきらめていた航空機メーカーは目覚めた。これは航空機製造再開のための下調べであろうと活気づき、同年暮れに米極東空軍機体修理の引き合いがあるとの情報に活気を得た。

三菱の能力は十分あるが工場

は港の方にあり飛行場に降りたらずくそのまま工場に入って修理、整備ができる工場が必要ということ。三菱は県下の旧軍関係の飛行場を調査して回った。飛行場隣接の工場用地を探したのだ。このときから血眼で飛行場探しが始まった。第一候補は「大府飛行場」で、これは戦時中、知多半島の中央丘陵地に陸軍重爆撃機「飛龍」の組立工場を建設し、その隣接飛行場として九百メートルの滑走路を造ったものである。山を崩し、谷を埋め、ちようど山間の盆地で、航空母艦のような飛行場であった。三千坪の格納庫一棟がボツンと残っていたが、肝心な滑走路はガタガタに切り崩され、ちようど焼酎を造るための甘藷が滑走路一杯に干してあり、鼻をつんざくような異臭に悩まされながら、調査団は隅から隅まで踏破して調べまわったという。しかしジェット機が離陸するには滑走路が短く、これを延長するには山を動かさなければならず大変な労力がかかるのでまずは断念せざるを得なかった。